



練馬区×ピンクリボンキャンペーン

区立中学生のメッセージをパネル展示

と き	10月1日(火)～10月31日(木)
と ころ	パネル展示：練馬区役所本庁舎1階アトリウム・2階通路(豊玉北6-12-1)

1日、区では、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボンキャンペーン」の一環として、区役所本庁舎1階アトリウムをピンクリボンで飾りつけ、合わせてがん検診の重要性についてパネル展示を行う。多くの人に乳がんに関心を持ってもらい、乳がん検診受診の重要性を伝えるのが目的。



アトリウム

アトリウム正面入り口西側と2階通路の掲示板では、がん検診や乳がんの自己触診法などについてのパネル展示を行い、検診受診を呼びかける。

子どもの頃から乳がん検診に関心を持ってもらうために、今年は初めての試みとして、区立中学生18人によるピンクリボンメッセージを展示する。



パネル展示

【増加傾向にある乳がん】

乳がんは女性のがんの中でも近年増加傾向にあり、日本人女性の15人に1人が乳がんになるといわれている。女性が乳がんにかかる可能性は40～50歳代で急増し、練馬区の40～59歳の女性のがん死亡率第1位は乳がんである。乳がんは早期に発見すれば高い確率で治すことが可能である。しかし、現状では乳がん検診受診率は低く、区の乳がん検診受診率は19.4%（平成24年度）であり、平成23年度の20%を下回る結果となっている（平成23年度は国18.3%、特別区16.7%）。ピンクリボンキャンペーンの目的は、日ごろから自分の乳房に関心を持ってもらい、乳がん検診受診の重要性を呼びかけることで、自治体や民間企業がそれぞれキャンペーンに参加している。練馬区では次のような取り組みを行う。

【キャンペーン月間中の区の取り組み】

●区立中学校の生徒によるメッセージパネル展示

初めての試みとして、区の中学生18人によるピンクリボンキャンペーンのメッセージをパネル展示する。中学生の家族の年代は、乳がん年齢でもあることから、子どもの立場から乳がん検診の大切さを訴えてもらう。他にも夫や息子、母の立場からのメッセージもパネル展示する。

●健康フェスティバルでもピンクリボンキャンペーン

10月20日(日)、練馬まつりと同時開催の健康フェスティバル(会場：開進第二中学校)でも乳がん検診車の展示など、ピンクリボンキャンペーンを実施する予定

新たな試みとして、区立中学や区内大学の協力によるダンスや音楽などのパフォーマンスを披露。こうした年代の参加を得て、幅広い年代に乳がん検診の受診を呼びかける。

●区役所本庁舎をピンクリボンで飾り、がん検診の重要性に関するパネルを展示

乳がんの早期発見・早期診断・早期治療のシンボルであるピンクリボンの趣旨への理解と、乳がんへの関心を持ってもらうためのメッセージを発信する。

●乳がん検診医療機関マップの配布

区役所と区内6箇所の保健相談所で、ねり丸缶バッジなどのグッズと一緒に乳がん検診医療機関マップを配布する。区では、乳がん検診医療機関をわかりやすくするために、新たにピンクの優しい色調のマップを作成した。